

ルムットバライ地熱発電計画【インドネシア】

施策所管局課 国別開発協力第一課
評価年月日 令和2年4月

1 案件概要	
(1) 供与国名	インドネシア共和国
(2) 案件名	ルムットバライ地熱発電計画
(3) 目的・事業内容 *閣議決定日, 供与条件などを含む	<p>南スマトラ州において, ルムットバライ地熱発電所 (55MW 級 x 2 (110MW)) を建設し, スマトラ系統に接続することにより, 同系統における電力供給の安定性の改善を図り, もって投資環境の改善及びスマトラ地域の経済発展に寄与するもの。また, 再生可能エネルギー開発を促進し, 地球環境負荷の軽減に寄与するもの。</p> <p>案件の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発電所及び蒸気収集・還元設備 (1号機) ・発電所及び蒸気収集・還元設備 (2号機) ・コンサルティングサービス <p>ア 閣議決定日: 平成22年3月16日 イ 供与限度額: 269.66億円 ウ 金利: 0.3% (コンサルティングサービスについては0.01%) エ 償還 (据置) 期間: 40(10)年 オ 調達条件: 一般アントайд</p>
2 事業の評価	
(1) 経緯・現状	<p>ア 社会ニーズの現状</p> <p>本事業の計画当初, スマトラ系統の電力需要は年平均8.9%で伸び, 2017年までに約3,000MWの電源開発が必要とされていた。かかる状況を踏まえ, 逼迫する電力需要を満たし, 電力の安定供給・信頼度向上を図るとともに再生可能エネルギーの利用を増やすことも重要であるとされていた。</p> <p>2019年2月にインドネシア政府が策定した電力供給総合計画によると, 現在もスマトラ系統の電力需要は年平均7.9%の増加を見込んでおり, これを受け2028年までに約14,600MWの新規電源開発が必要とされている。また, 再生可能エネルギーの更なる活用も引き続き重視されており, 現在も本事業に関する社会的ニーズがある。</p> <p>イ 事業遅延に関する経緯・現状</p> <p>事業開始後, 2つの発電所を運転するために必要な蒸気量が確保できず, 実施機関 (国有石油会社) は当初想定発電所2号機同時建設の方針を変更し, 1号機ずつ建設する判断をした。2020年3月に1号機は商業運転開始済。2号機は, 追加で蒸気井の掘削を行い, 十分な蒸気量が確認されたことから, 現在入札開始に向け準備中。</p>
(2) 今後の対応方針	<p>本件に関する社会的ニーズが引き続きあり, 当初予定どおりの効果が見込まれており, 事業の進捗を妨げていた要因は解決していることから, 引き続き支援を継続する。</p>
3 政策評価を行う過程において使用した資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・交換公文 ・外務省の約束状況に関する資料及び案件概要 (https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/data/zyoukyou.html) ・国際協力機構の案件検索 (https://www2.jica.go.jp/ja/yen_loan/index.php) ・国際協力機構の事業事前評価表

(<https://www.jica.go.jp/activities/evaluation/before.html>)

・その他国際協力機構から提出された資料